

大津市総合計画第3期実行計画の策定について

令和6年3月14日
政策調整部企画調整課

目次

1.市民意識調査の概要、回答者の属性について

2.市民意識調査結果の概要

3.総合計画の概要について

4.計画策定の体制及びスケジュール

5.第3期実行計画策定に向けた基本的な考え方について

6.「総合計画実行計画」と「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の 一体化について

1. 市民意識調査の概要・回答者の属性について

調査対象・回収数

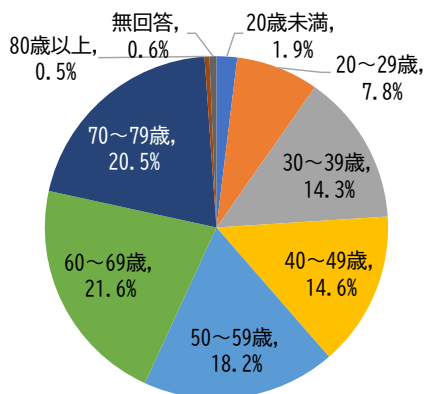
項目	件数または割合
発送数	3,000件
回収数	1,080件
郵送	721件
WEB	359件
回収率	36.0%

※抽出方法：住民基本台帳から地域ごと及び年代別に無作為抽出

調査期間

令和5年8月17日～9月10日

回答者の年代



設問

回答者属性

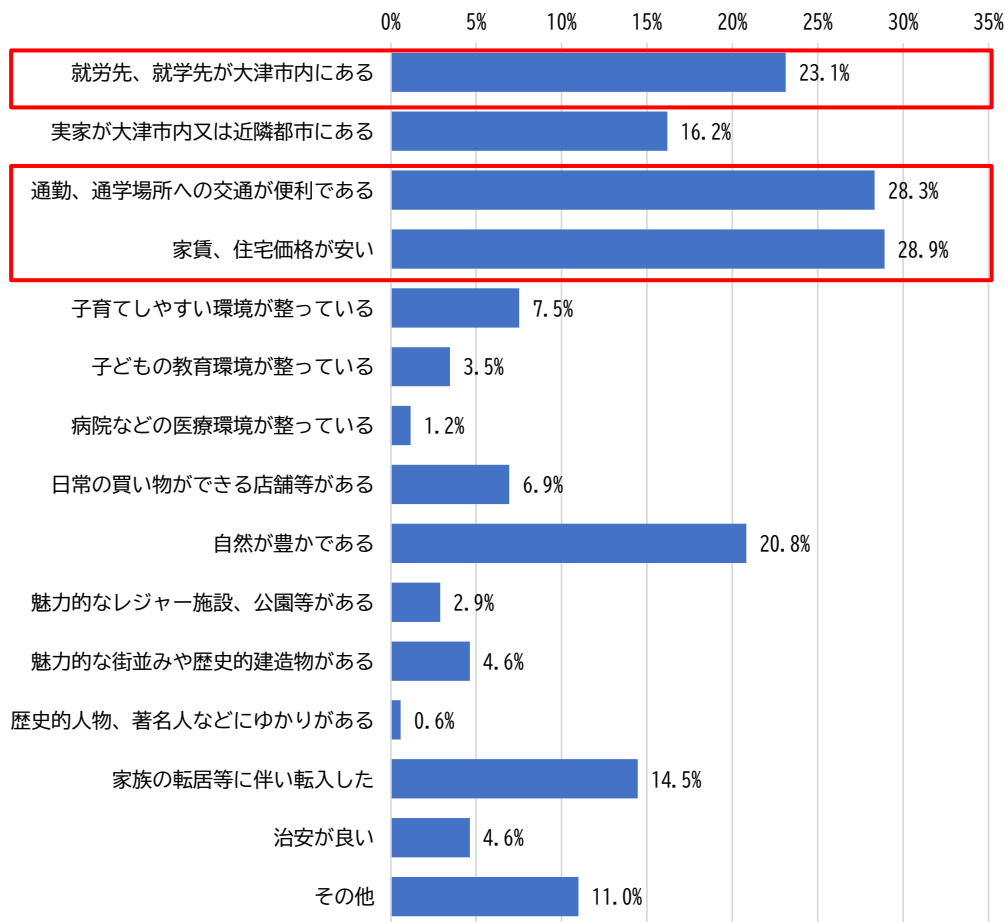
- ・性別
- ・年代
- ・同居家族の構成
- ・子ども・高齢者、の同居の有無
- ・居住年数
- ・居住区域

分野

- ・住み心地
- ・子育て
- ・学びの環境
- ・健康
- ・まちの魅力
- ・地域活動
- ・防災
- ・新型コロナウイルス感染症による影響
- ・デジタル技術の活用
- ・大津市の将来のまちづくり

2. 市民意識調査結果の概要

転入理由 居住年数10年未満と答えた方 [Q4]



調査結果

1位「家賃、住宅価格が安い」

→北部、西北部、中北部地域に居住する人、
夫婦のみ、二世世代家族、三世世代家族の回答が多い

2位「通勤、通学場所への交通が便利である」

→20～40代、
中北部、中部、東部地域に居住する人の回答が多い

3位「就労先、就学先が大津市内にある」

→20、30、50代の回答が多い、
1人暮らしの人のうち50%が選択

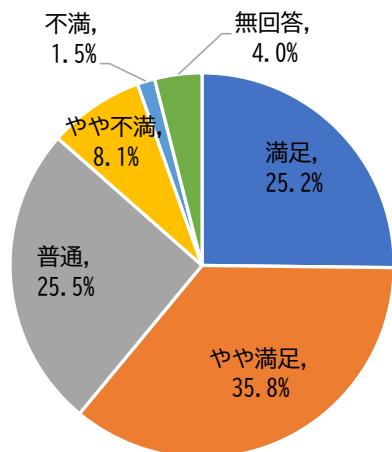
- ・「歴史的人物、著名人などにゆかりがある」、
「病院などの医療環境が整っている」、「魅力的な
レジャー施設、公園等がある」等は回答数が少ない。

傾向

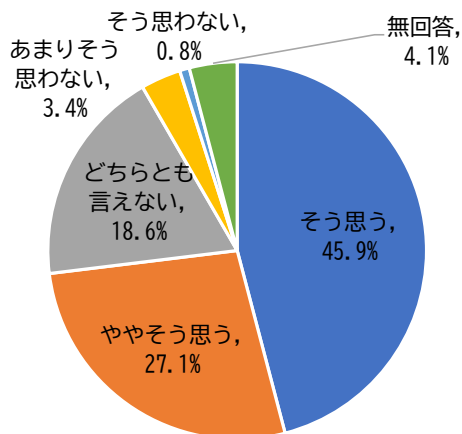
- ・20～40代の若い年代の転入理由は、「通勤、通学
場所への交通が便利」、「家賃、住宅価格が安い」
が多い。
- ・60代以上の転入理由は、「自然が豊かである」、
「魅力的な街並みや歴史的建造物がある」が多い。
- ・北部、西北部地域の転入理由は「自然が豊かであ
る」が50%以上を占めている。

2. 市民意識調査結果の概要 住み心地 [Q5～Q7]

【大津市の住み心地に満足していますか】



【大津市に住み続けたいと思いますか】



調査結果

- ・満足していると回答した人は全体の約60%、定住意向を示している人は全体の約70%といずれも全体の半数以上を占めている。
- ・満足している理由
 - 1位「自然環境がよい」
→北部、西北部に居住する人の割合が高い。
40代以上、年代が上がるにつれ、回答割合が高くなっている。
 - 2位「買い物等日常生活が便利である」
→西北部、中南部、東部地域に居住する人の割合が高い。
 - 3位「交通の便がよい」
→中部、中南部地域に居住する人の割合が高い。
北部、西北部、南部地域に居住する人の割合が低い。
- ・住み心地に満足している理由を選択した人が少ない項目は、「子育て支援サービス」、「子供の教育環境」、「文化・芸術活動の充実」

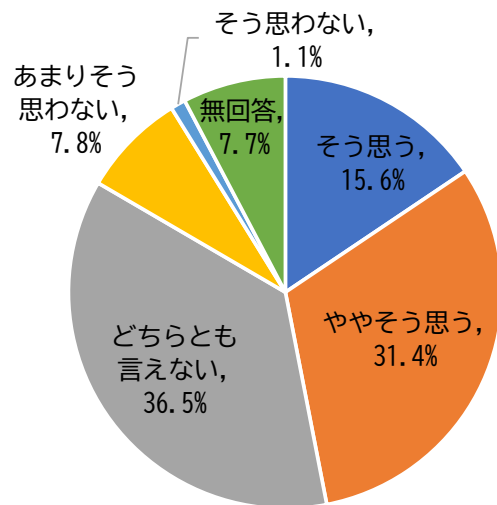
傾向

- ・年代別では、30代及び40代の満足度が比較的高く、30代以上の定住意向が比較的高い。
- ・転入理由でも上位にあがっていた「自然環境のよさ」、「交通の利便さ」が住み心地の満足度の高さに繋がっている。
- ・北部、西北部、南部地域では「交通の不便さ」が住み心地の満足度の低さに繋がっている。

2. 市民意識調査結果の概要

子育て [Q8~Q11]

【大津市が安心して子どもを産み、育てることができる環境だと思いますか】



調査結果

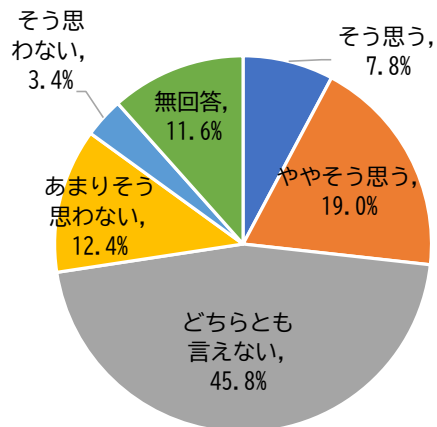
- ・安心して子どもを産み、育てることができる環境だと思いと回答した人は全体の47%
- ・安心して子どもを産み、育てることができる環境だと思理由として、「子どもを一時的に預けられる人、場所がある」、「子育て支援サービスの質が高い」の回答が多い。
- ・安心して子どもを産み、育てることができる環境だと思わない理由として、「保育や教育など子育てにかかる助成がない」、「幼児教育や保育の質が低い」の回答が多い。
- ・子育てに関する情報を主にどこから入手しますか
 - 1位「家族や友人からの口コミ」
 - 2位「インターネット」
 - 3位「新聞、雑誌、本」
- ・子育て中の方が子育てに関して知りたい情報
 - 1位「親子で楽しめるイベント・催し」
 - 2位「保育・教育サービス（保育園、児童クラブなど）」
 - 3位「妊娠・出産・子育てに関する給付金」

傾向

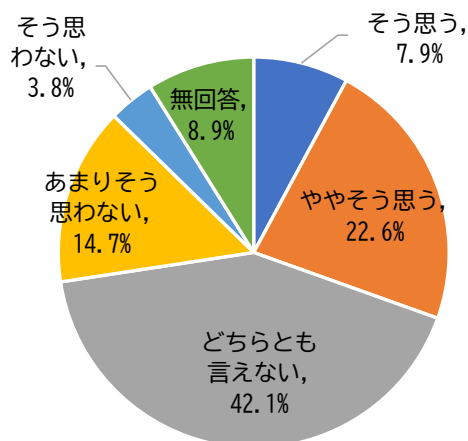
- ・年代別では、30代、40代の50%以上が、安心して子どもを産み、育てることができる環境だと思いと回答している。

2. 市民意識調査結果の概要 学びの環境 [Q12、Q13]

【大津市立小中学校が子どもたちの能力を育む環境が整っていると思いますか】



【大津市が生涯にわたり学び続けられる環境だと思いますか】



調査結果

- ・市立小中学校が子どもたちの能力を育む環境が整っていると思うと回答した人は全体の約27%
- ・子どもの能力を育む環境が整っていると思う理由として「学ぶ力を向上させる授業」、「特色ある学校づくり」と回答した人が多い。
- ・子どもの能力を育む環境が整っていると思わない理由として「きめ細かな支援や指導体制がない」、「学ぶ力を向上させる授業がない」と回答した人が多い。
- ・生涯にわたり学び続けられる環境だと回答した人は全体の約30%
- ・生涯にわたり学び続けられる環境だと思う理由として「図書館機能が充実している」、「ライフステージに応じた学びの機会が提供されている」と回答した人が多い。

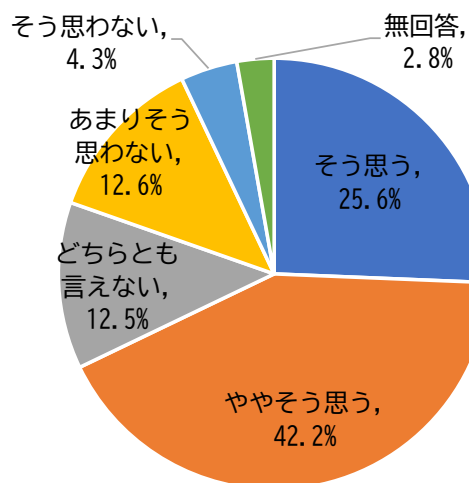
傾向

- ・市立小中学校が子どもたちの能力を育む環境が整っていると思うかの設問について、地域別でみると、中南部、南部地域は満足度が低いですが、東部地域は比較的高い割合となっている。
- ・生涯にわたり学び続けられる環境だと思わない理由では「図書館機能が充実していない」、「ライフステージに応じた学びの機会が提供されていない」と、そう思う理由と同じ事項を選んだ人が多く、図書館や学びの機会に対する関心の高さがうかがえる。

2. 市民意識調査結果の概要

健康 [Q14～Q16]

【ご自身が健康だと思いますか】



調査結果

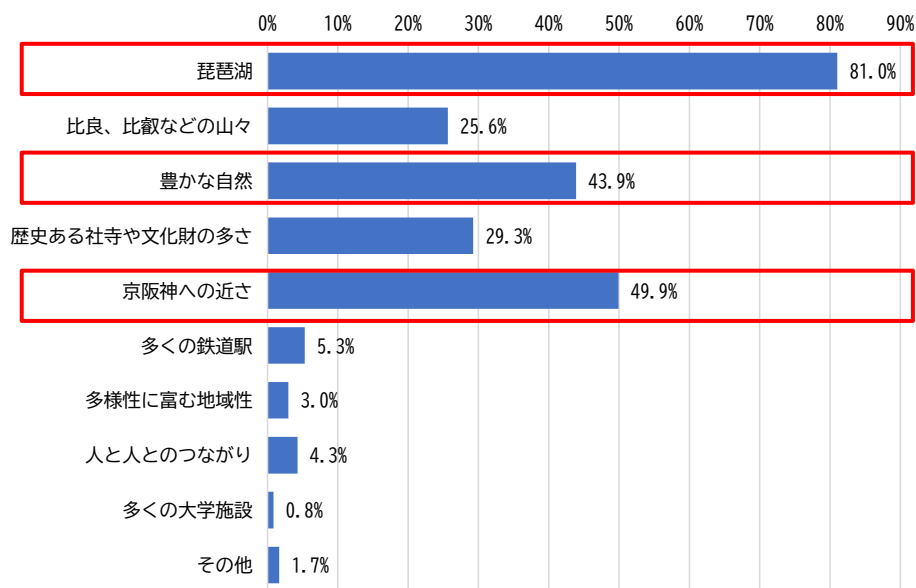
- ・自身が健康だと思う人は全体の約70%
- ・自身の健康のために心がけていること
 - 1位「睡眠をとる」
 - 2位「運動をする」
 - 3位「適切な体重維持」
- ・自身の健康について心配していること
 - 1位「運動能力の低下・体力の低下」
 - 2位「生活習慣病」
 - 3位「歯に関すること」

傾向

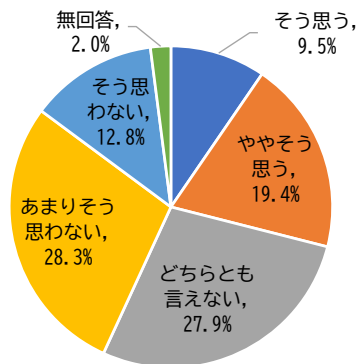
- ・健康のために心がけていることについて、年代別で見ると、40代以上で「適切な体重維持」、「歯の手入れ」を健康のために心がける人の割合が高くなっている。
- ・自身の健康について心配していることについて、全ての年代において、「運動能力の低下・体力の低下」を心配する人の割合が高い。
- ・自身の健康について心配していることについて、年代別にみると、30代以上で「生活習慣病」、40代以上で「目に関すること」、60代以上で「認知症」について心配する人の割合が高くなっている。

2. 市民意識調査結果の概要 まちの魅力 [Q17~Q19]

【大津市のまちの魅力だと思えることは何か】



【まちの魅力を市内外の方へ発信できていると思いますか】



調査結果

・まちの魅力だと思えることは何か

1位「琵琶湖」

→全ての属性で回答した人の割合が最も高い

2位「京阪神への近さ」

3位「豊かな自然」

→北部、南部地域で「豊かな自然」と回答した人の割合が高い

・まちの魅力を市内外の方へ発信できていると思うと回答した人は全体の約30%であり、できていないと思うと回答した人は全体の約40%となっている。

傾向

・属性に関わらず、多くの人が琵琶湖をまちの魅力と感じている。

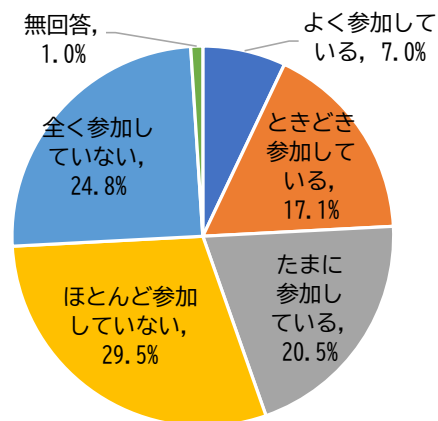
・「京阪神への近さ」、「豊かな自然」は転入理由や住み心地の満足理由としても多くの人が選択しており、まちの魅力として高く評価されている。

・まちの魅力だと思えることについて、地域別にみると、北部地域ほど「比良、比叡などの山々」、中部、中南部、東部地域ほど「京阪神への近さ」と回答した人の割合が高く、住み心地の満足理由と同様の傾向が見られる。

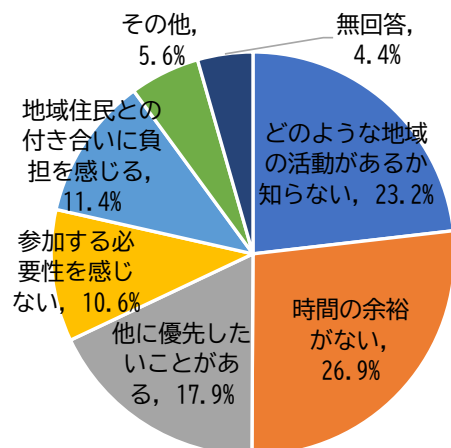
2. 市民意識調査結果の概要

地域活動 [Q20～Q22]

【地域活動に参加していますか】



【地域活動に参加しない理由は何ですか】



調査結果

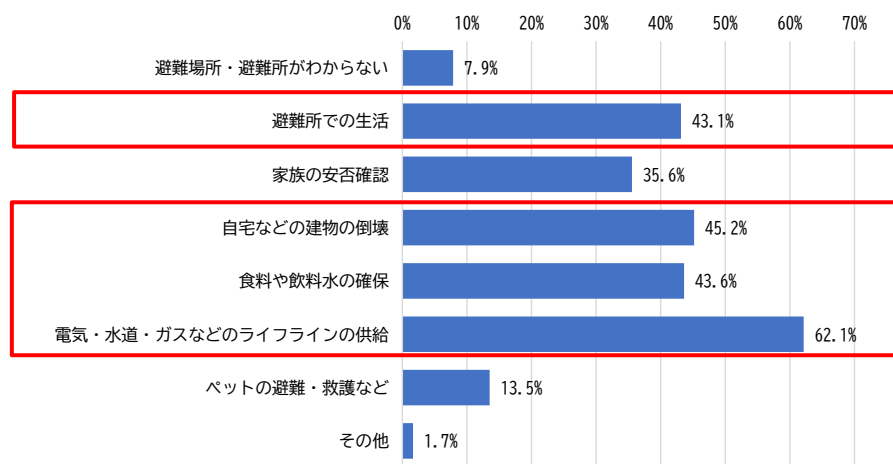
- ・地域活動に参加していると回答した人は全体の約45%
参加していないと回答した人は全体の約54%
- ・主に参加している活動
1位「自治会」
→参加率は、約87%と最も多く、20代で約65%、30代以上で約80～90%となっている。
- 2位「子ども会」
→参加率は、約11%で、30代、40代で約20～30%となっている。
- 3位「その他」
- ・主に参加している活動の中で、消防団、自主防災(防犯)会の参加率は、全体の約6%と低かった。

傾向

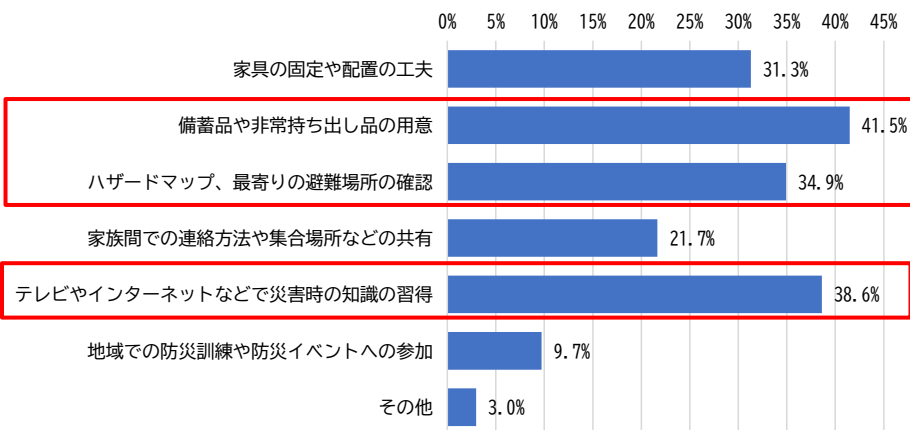
- ・地域活動に参加する人の割合について、年代が上がる、又居住年数が長くなるにつれ高くなっている。
- ・地域活動に参加する人の割合について、居住地域別でみると、北部、中北部、中南部地域がやや高い。
- ・地域活動に参加しない理由について、若い年代ほど「時間の余裕がない」と回答した人の割合が高く、年代が上がるにつれ「地域住民との付き合いに負担を感じる」と回答した人の割合が高い。

2. 市民意識調査結果の概要 防災 [Q23～Q24]

【災害について特に不安に思うことはどのようなことですか】



【防災のために特に取り組んでいることはありますか】



調査結果

- ・災害について不安に思うこと
「電気、水道、ガスなどのライフラインの供給」と回答した人が約60%を占めている。
その他、「自宅などの建物の倒壊」、「食料や飲料水の確保」、「避難所での生活」と回答した人が約40%となっている。
- ・防災のために取り組んでいること
「備蓄品や非常持ち出し品の用意」、「テレビやインターネットなどで災害時の知識の習得」と回答した人が約40%、
「ハザードマップ、最寄りの避難場所の確認」と回答した人が約35%
「地域での防災訓練や防災イベントへの参加」と回答した人は約10%と少ない。

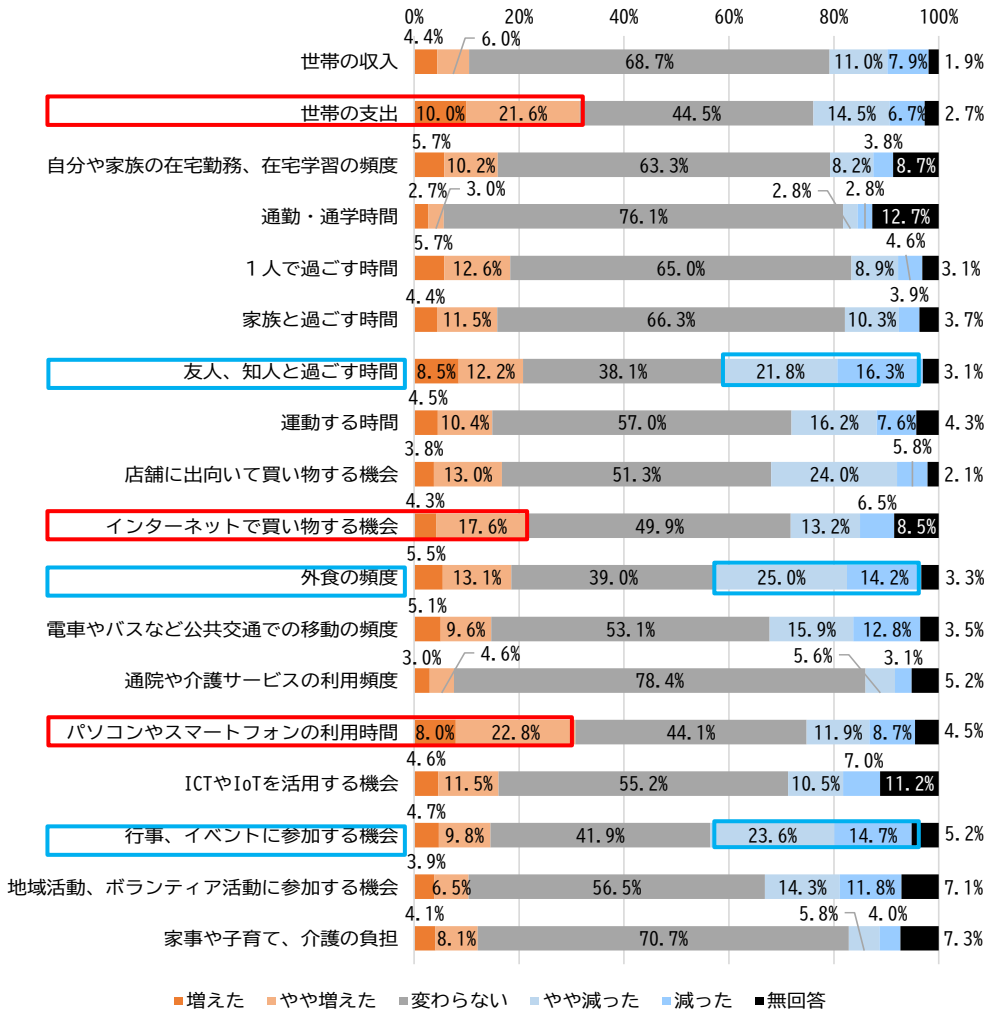
傾向

- ・年代が上がるにつれ、「避難所での生活」、「ライフラインの供給」について不安に思う人の割合が高くなっている。

2. 市民意識調査結果の概要

新型コロナウイルス感染症による影響 [Q25～Q27]

【コロナ禍前後であなたの生活にどのような変化がありましたか】



調査結果

・コロナ禍前後での生活の変化

<増えた・やや増えたもの>

- 1位「世帯の支出」
- 2位「パソコンやスマートフォンの利用時間」
- 3位「インターネットで買い物する機会」

<減った・やや減ったもの>

- 1位「外食の頻度」
- 2位「行事、イベントに参加する機会」
- 3位「友人、知人と過ごす時間」

・市の新型コロナ感染症対策のご自身にとっての重要度

「重要だった」、「どちらかといえば重要だった」

の回答割合

- 1位「感染症対策」
- 2位「生活者支援」
- 3位「経済対策」

・新型コロナの影響により前より重要だと感じること

- 1位「日頃からの感染症対策」
- 2位「同居する家族・親族等」
- 3位「収入や貯蓄」

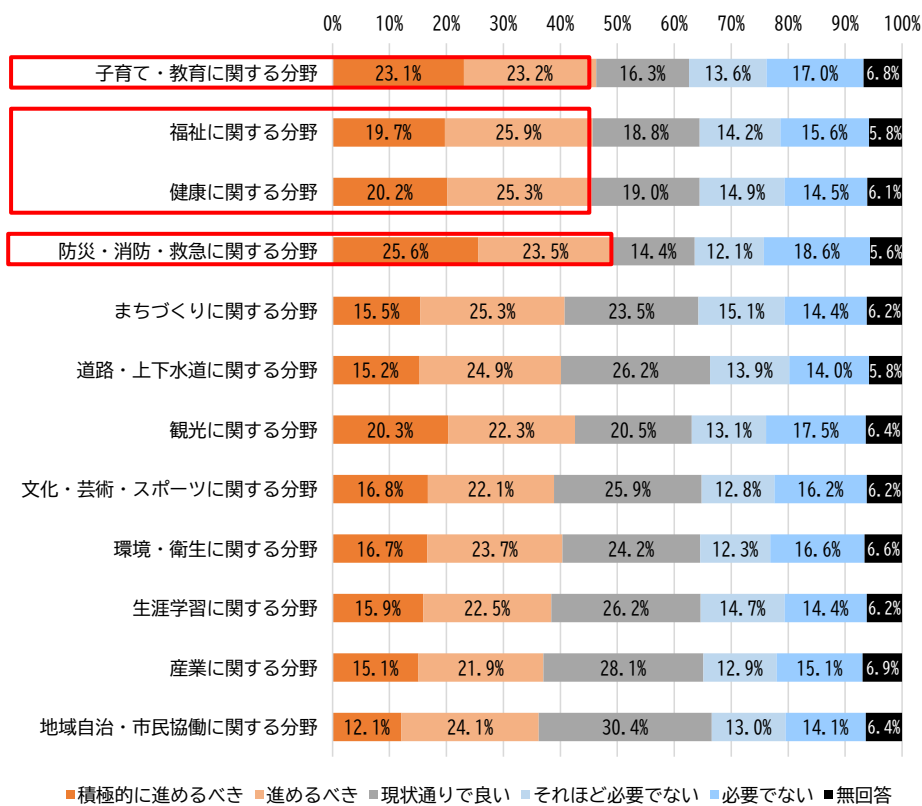
傾向

・コロナ禍前後での生活で減ったものをみると、人とのコミュニケーションの機会が減少している状況がうかがえる。また、「店舗に出向いて買い物する機会」や「電車やバスなど公共交通での移動の頻度」との回答も多く、外出機会も減少している状況がうかがえる。

2. 市民意識調査結果の概要

デジタル技術の活用 [Q28～Q35]

【下記の分野でのデジタル技術の利活用を、どの程度進めるべきですか】



調査結果

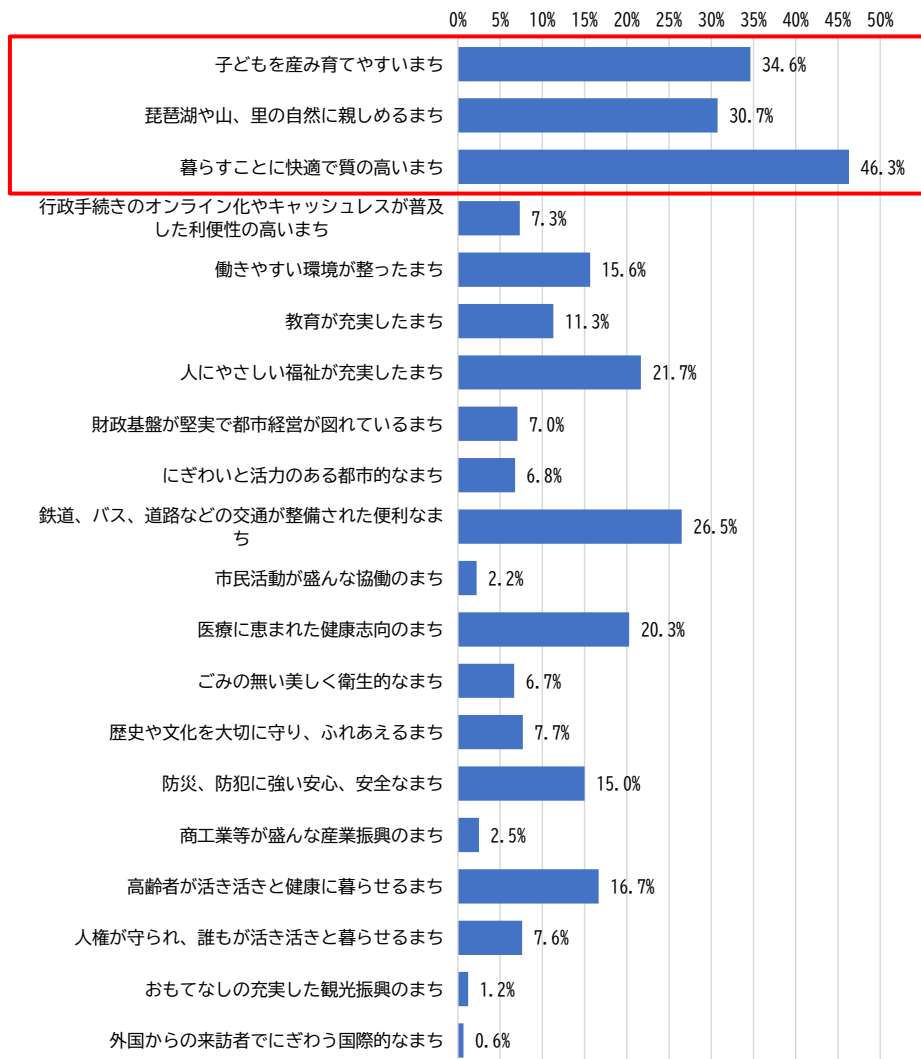
- ・ ほぼ毎日利用する機器
 スマホが約60%、携帯電話が約40%、
 パソコン及びタブレット端末は約30%
- ・ 普段、デジタル機器を利用している目的
 1位「通話、電子メール」
 2位「情報検索、サイトの閲覧」
 3位「動画視聴」
- ・ 通話、電子メール以外の目的でデジタル機器を利用しない理由
 1位「興味がない」
 2位「使い方がわからない」
 3位「個人情報の漏えいや詐欺被害などの心配」
- ・ 利活用を進めるべきだと思うデジタル分野
 1位「防災・消防・救急」
 2位「子育て・教育」
 3位「福祉」、「健康」

傾向

- ・ 年代が上がるにつれ、デジタル機器の活用が少なくなっており、目的別でみると、動画視聴やSNS、金融取引などはその傾向が顕著にみられる。

2. 市民意識調査結果の概要 大津市の将来のまちづくり [Q36]

【将来の大津のまちの姿について、特に望むものは何ですか】



調査結果

1位「暮らすことに快適で質の高いまち」

→20～60代の約50%、居住年数2年未満の約60%が選択

2位「子どもを産み育てやすいまち」

→20～30代の約50～60%、居住年数5年未満の約60%以上が選択

3位「琵琶湖や山、里の自然に親しめるまち」

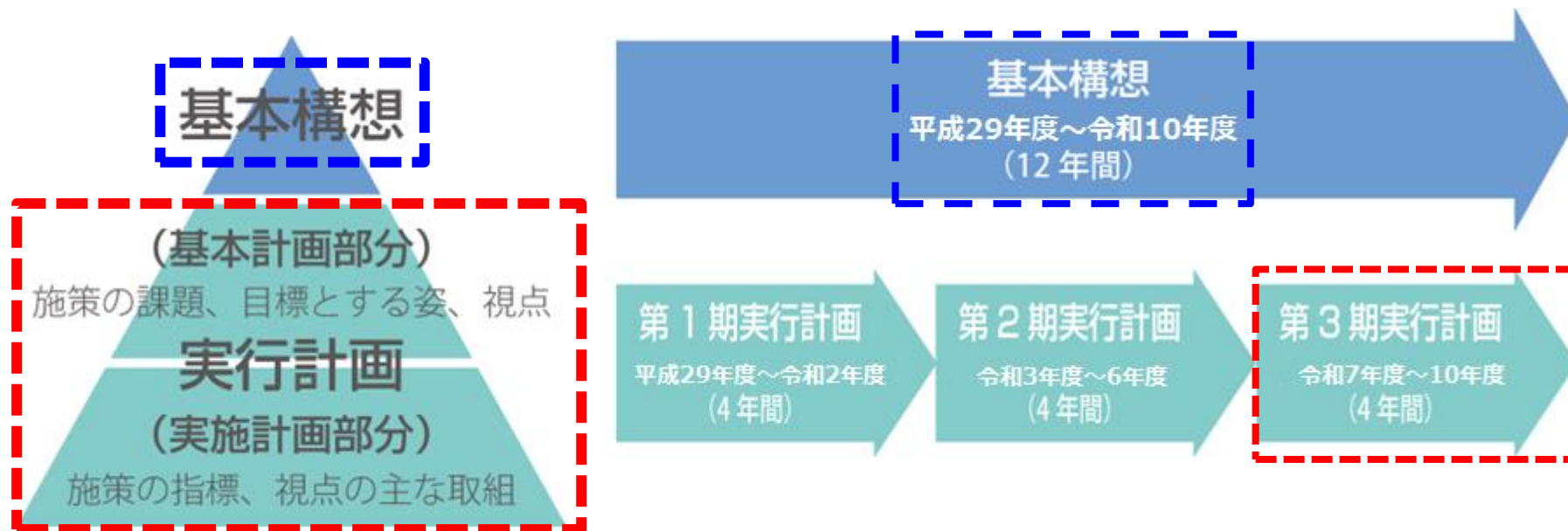
→いずれの世代及び居住年数も約20～30%が選択

傾向

- ・年代別にみると、年代が上がるにつれ、「医療に恵まれた健康志向のまち」、「防災・防犯に強い安心、安全なまち」、特に60代以上で「高齢者が活き活きと暮らせるまち」と回答した人の割合が高くなっている。
- ・地域別にみると、東部地域ほど「子どもを産み育てやすいまち」、「教育が充実したまち」を望む人の割合が高く、北部地域ほど「医療に恵まれた健康志向のまち」、「鉄道、バス、道路などの交通が整備された便利まち」を望む人の割合が高い。

3. 総合計画の概要について

大津市総合計画・・・市政を総合的・計画的に推進していくための全体的計画



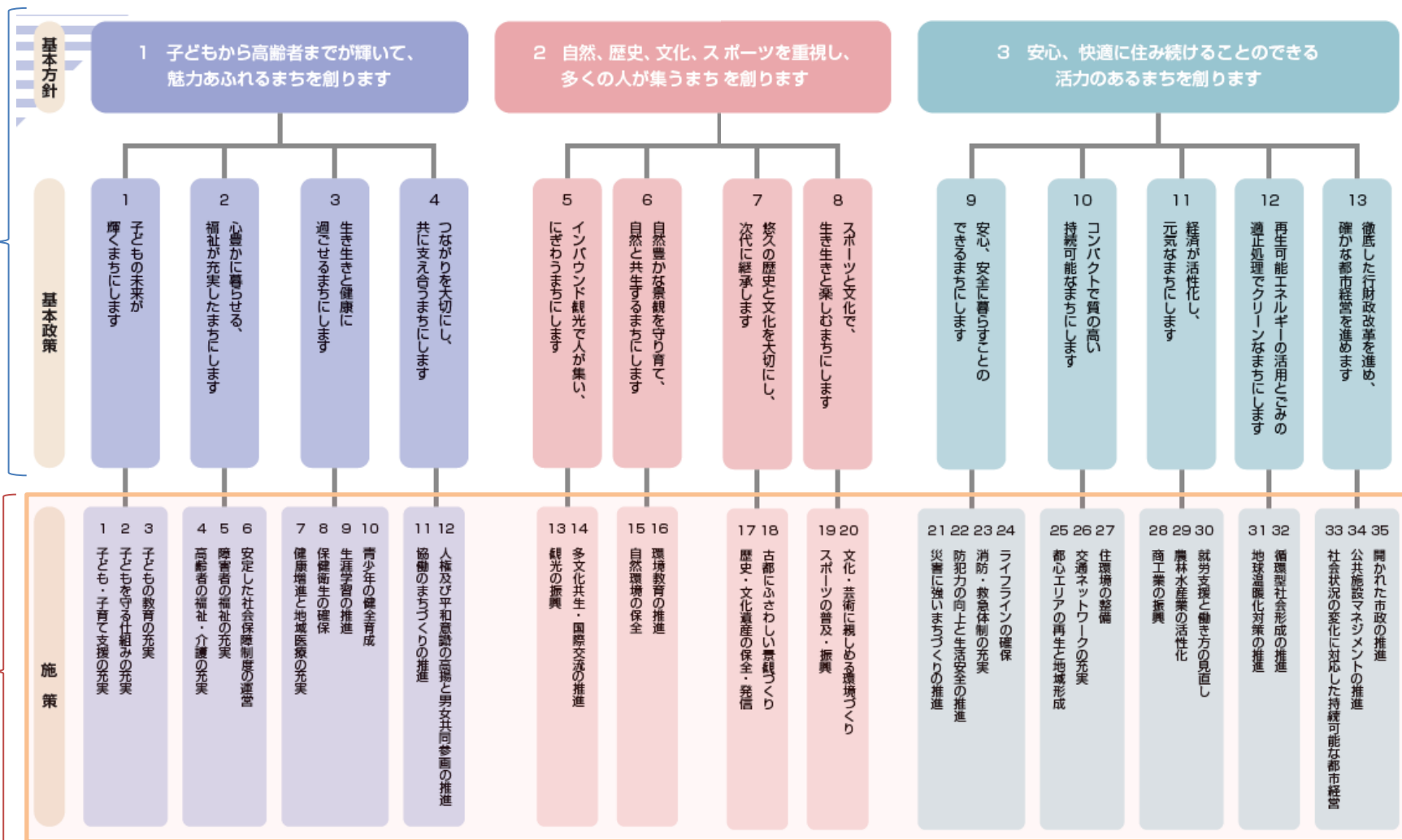
3. 総合計画の概要について

基本構想部分

【平成29年度～令和10年度】

実行計画部分

【令和6年度～令和10年度】



※第3期実行計画では、体系図の施策について見直しを実施

4. 計画策定の体制及びスケジュール

策定の体制

- 1 総合計画等策定懇談会
- 2 庁内体制（策定本部員会議、幹事会議）

計画への市民意見

- 1 市民意識調査
- 2 パブリックコメント

4. 計画策定の体制及びスケジュール

令和6年

4月～5月

- ・総合計画等策定幹事会議
- ・総合計画素案作成

6月

- ・総合計画等策定本部員会議

7月～8月

- ・総合計画等策定幹事会議
- ・第3期実行計画案作成

9月～10月

- ・パブリックコメント

11月

- ・市議会への議案提出

※段階に応じて実施：総合計画等策定懇談会、市議会への報告

5. 第3期実行計画策定に向けた 基本的な考え方について

・社会環境の変化等を踏まえた施策、主な事業の見直し

【社会環境の変化への対応】

出生数の減少、人口減少・少子高齢化、地域コミュニティの希薄化、急激な物価高騰への対応など

・新たな視点での取組の検討

【新たな視点】

第2期実行計画の取組に加えて、DX（デジタルトランスフォーメーション）、GX(グリーントランスフォーメーション)など、新たな視点での取組の整理・検討

・計画期間に応じた取組内容等の検討

【取組内容等の検討】

事業着手に相当年数を要し、次期計画期間中に具体的な進捗が図れない事業の見直しなど

・「まち・ひと・しごと創生総合戦略」との一体化

【一体化の方向性】

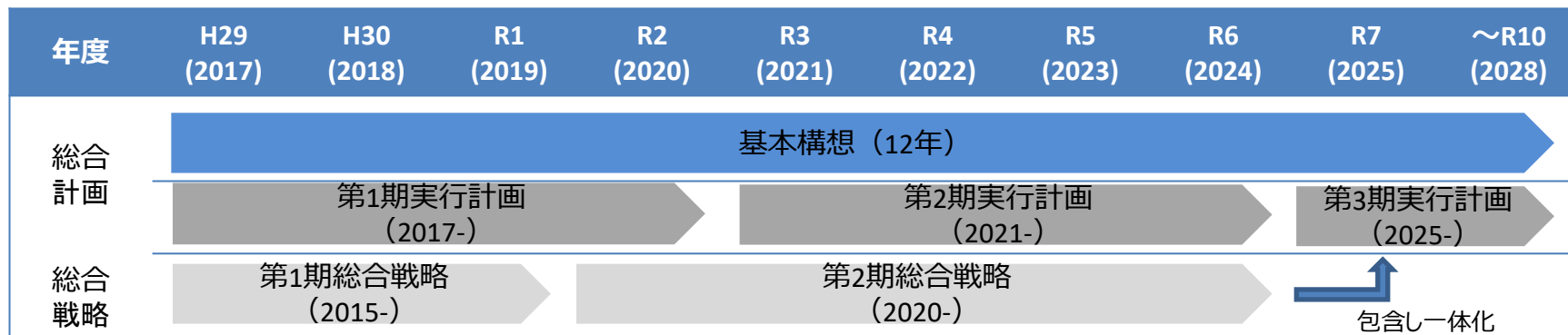
人口減少対策をより強力に推進するため、人口減少対策、地方創生に関する施策を定めた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」について、市の最上位計画である総合計画との一体化を検討

6. 「総合計画実行計画」と「まち・ひと・しごと 創生総合戦略」の一体化について

参考：まち・ひと・しごと創生総合戦略について

- ・まち・ひと・しごと創生法により策定することが努力義務とされており、本市の人口減少対策、地方創生の取り組みを位置づけた計画
- ・第2期大津市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、総合戦略という。）の計画期間は、2020(令和2年)～2024年(令和6年)まで。
- ・なお、令和4年12月、国において「デジタル田園都市国家構想総合戦略」が策定され、名称が「まち・ひと・しごと創生総合戦略」から「デジタル田園都市国家構想総合戦略」へと改訂された。

【総合計画と総合戦略の計画期間のイメージ】



6. 「総合計画実行計画」と「まち・ひと・しごと 創生総合戦略」の一体化について

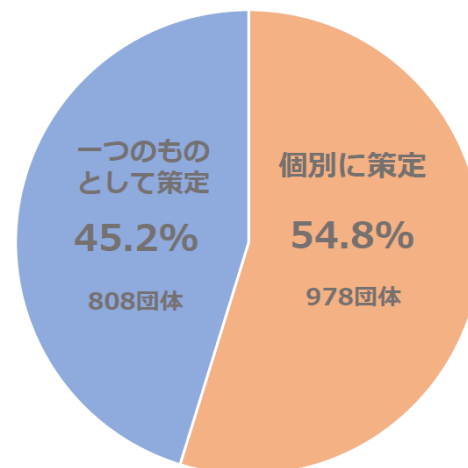
総合計画等と地方版総合戦略を一体的に策定する要件等について

- ① 総合計画等が、デジタルの力を活用した地方創生という目的が明確であること
- ② 目標や重要業績評価指標が設定されるなど、総合戦略としての内容を備えていること

【参考】総合計画等と地方版総合戦略の策定状況について

54.8%の地方公共団体が、地方版総合戦略と総合計画等を個別に策定し、45.2%の地方公共団体が一つのものとして策定している。

滋賀県においても、総合戦略と県基本構想実施計画の統合を予定している。



令和5年10月20日 内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局
「地方版総合戦略の策定状況等に関する調査結果」より抜粋

6. 「総合計画実行計画」と「まち・ひと・しごと 創生総合戦略」の一体化について

【一体化のイメージ】

